

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4171000260		
法人名	有限会社 睦和福祉会		
事業所名	ライフサポートあさひ		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字鹿江1413-8		
自己評価作成日	平成26年5月6日	評価結果市町村受理日	平成26年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年5月20日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

スプリングラー設備はもちろんの事、リビングや各居室には加湿空気清浄機を設置している。害虫駆除や衛生面でも専門業者(イーテック)にお願いし、定期的に点検が行われている。感染症の予防に対してノロウイルスに効果のある塩素を含む消毒液を毎日作り、手すりやトイレの床など拭きあげている。また、入居者様の状態に応じ、簡単なリハビリを実施、歌を歌ったり、体を動かしたり、手先を動かしたり、レクリエーションを毎日行っている。希望に応じ主治医、ご家族様の同意のもと、訪問マッサージを医療保険で安く受ける事ができる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

住宅地と田園に囲まれたのどかな環境にあるホームは、天窓からの光が差し込み明るく、リビングには絵手紙や、入居者一人ひとりの似顔絵と手形が飾られており、アットホームな雰囲気を感じられる。ホーム全体で感染症予防に努められており、手洗いの徹底や消毒液によるテーブルや床拭きなど行われている。リビングには空気清浄機や加湿器が設置され、快適に過ごせる環境となっている。家族会を定期的に開催され、入居者の楽しみ作りや職員との関係作りの良い機会となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小ミーティングや全体のミーティングで理念に基づいた取り組みを行えるように話し合いを行っている。	理念はフロアに掲示されており、ミーティング等では理念に基づいた支援を実践できるよう、伝えたり、話し合いなど行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川副ネットワークの勉強会、敬老会に参加している。回覧板など。	地域の介護事業所が集まる勉強会に参加したり、近所へ回覧板を回すなどしているが、地域住民との交流や関わりは少ない。	自治会への参加や、ホームの行事にも地域からの参加を呼び掛ける等、地域住民との関わりや、交流を増やす取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の家族には認知症の方に理解や支援の方法など一緒に考えているが、他の地域の人々には発信できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おたっしや本舗の方をお招きして行事に参加してもらったり、意見交換を行っている。しかし、ご家族様に参加していただくまでには至っていない。	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されている。外部からの参加者は地域包括支援センターのみで家族や地域代表の参加はなされていない。	年6回の会議の開催と、家族が参加しやすいよう、家族会やホームの行事に合わせて、開催するなどの工夫が望まれる。また、民生委員、自治会長らへの呼びかけも望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	部屋の空き状況などおたっしや本舗との協力関係は築けている。	随時、地域包括支援センターなどへ、相談や報告を行っている。入居に関する相談も受けており、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為、玄関やユニット間の施錠を行っているが、10:30から11:15までは見守りしやすいように東棟と西棟へに行き来ができるようになっている。また、状況に応じて家族への説明と同意のもと安全ベルトを使用しており、使用時間も記録している。	安全上の為、玄関の施錠は常時されている。安全ベルトを使用している入居者には、事前に家族の同意を得て、使用状況においては、経過を記録されている。	玄関の施錠について、安全上に配慮しつつも、呼び鈴や段階的に開放時間を設ける等、アイデアを出し合い、施錠に頼らないケアの工夫が望まれる。また、安全ベルトの使用についても、定期的に解除に向けた検討会を開催し、拘束に頼らないケアへの取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会に虐待防止法について学ぶ機会を設けており、利用者様に対する虐待が見過ごされないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度は権利擁護に関する勉強会を実施しているが、昨年は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に説明を十分に行い、納得していただいた上で署名、捺印をもらっている。契約終了時にも納得の上で契約解除を書いてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に二回の家族会に1家族ずつ話しをする機会を設け、その時に要望など聞いている。また、玄関に意見箱を設置している。	年2回家族会を開催し、情報交換やクッキングをしたりと、入居者と共に楽しい時間を提供できるよう取り組まれている。また、日々の面会の際に、入居者の普段の様子を報告し、意見を受けられている。家族と良好な関係作りに努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけたくさん意見を出しやすく、言いやすいように職員を二つのチームに分け、ミーティングを実施。その意見を全体会議の話し合いで発表するようにしている。	会議の際は、職員をグループに分け、少人数でのミーティングを取り入れることで、職員の意見が出やすい工夫をされている。また、そこで出た意見を全体ミーティングへと反映させ業務改善に繋がられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとりの勤務姿勢を把握した上で賞与に反映するようにしている。また、主婦の方は子供を連れて来ていいようになっている。冬場は感染症も流行るので薬品会社よりインフルエンザになりにくい飲料を購入し、入居者様はティータイムの時に飲まれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて研修をうけられるような機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	経営が同じグループホーム職員との交流の場を設けてあり、お互いの業務に関して意見交換が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時やサービスを開始する段階で利用者が困っていることや、要望が無いかを傾聴し把握していく努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時のアセスメントで家族よりからの要望や心配している事はいかか話しをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に、今後必要と思われるサービスを考え実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の昔の生活の知恵などを聞く事もあり、勉強になる。料理の味付けや、子育てなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態に応じて、ご家族様と蜜に連絡を取り合い今後の方針に向けた相談を行っている。また、ご本人より、家族に電話され、病院受診したいなど、散髪に行きたいなどいつでも連絡できるようになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人に手編みのマフラーや帽子、手紙など郵送している。電話なども取りついでいる。	入居者も地元の方が多いため、昔馴染みの友達が訪ねてくる事もある。その際は、居室に通し、ゆっくり楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮されている。また、行きつけの美容室や法事などの対応は、家族の協力を得て実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通してなるべくリビングで過ごしていただき、職員や他の入居者様と交流ができるようにしている。また、ユニット間の扉がガラスなので2ユニットが見えるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時や普段の生活の中で、定期的にあセスメントを行い、希望や意向の把握に努めている。困難な場合もなるべく入居者様本位のサービスが行えるように考えている。	入居時や面会時に家族から意見を聞いたり、入居者との日々の関わりの中から、思いや意向を把握し、支援に繋がられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に今までの生活環境や生活歴について話を聞き、ご本人様の趣味や嗜好、サービス利用の経過について把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の担当職員をはじめ、全職員が普段の生活状況を見ながら、利用者様のその時の状態を有する可能性について考え、会議の場や業務の中で把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、全体会議での意見交換、主治医からの意見に基づき、現状に即した介護計画書を作成している。	介護計画は半年ごとに更新されている。また、モニタリングを行い、必要時は随時更新されている。本人と家族から意向を聞き、ミーティングで職員と意見交換し作成されている。健康面に関しては、事前に主治医に状況を確認し、計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に、毎日のケアや気付いたことを記録してあり、職員間で申し送りを行っている。内容によっては、介護計画に組み込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の必要性があり、その際にご家族様の都合が付きにくい時は、有料ではあるが代わりに職員が付き添い、受診している。また、入院中に必要な物品などを準備することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、実施されている川副ネットワークに職員が交代で出席している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に今までのかかりつけの医療機関の受診を希望されるか否かを確認をしている。	かかりつけ医の希望があった際は、希望に沿った受診支援がされている。協力医療機関以外の往診もあり、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて非常勤の看護師と協力医療機関の看護師に相談し、速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は、経過に伴い医療機関との連絡を取り合い、状態に応じて話し合いを設けている。早期退院に向けて働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期のあり方について、ご家族様に説明をし、同意書をとっている。また、終末期となられた場合には、ご家族様と医療機関、グループホーム職員が密に連絡を取り合い、今後の事を話しあっている。	契約時には家族に説明をし、同意を得られている。終末期の対応は、その状態に応じ何度も家族、主治医と話し合い、支援方針を決めている。職員も全体会議で終末期の対応について共有を図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊の指導の下、応急救護の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施しているが、地域との消防団との協力が至っていない。	火災避難訓練は行われているが、夜間想定 の訓練は行われていない。災害時外部の方が救助に来た際、入居者の情報が分かるよう、居室のドアに本人と分かるプレートをさりげなく設置するなどの工夫がなされている。	夜勤者を中心とした夜間想定 の火災避難訓練や、他災害への対策作りを進められることが望まれる。また、地域住民や消防団等の地域との協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないように、サービス業として、適切な言葉使いができるように、努力している。	一人ひとりに合った接し方を把握し、関わりを持たれている。日々、個人のプライバシーに十分に配慮し、支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レク活動では何をやりたいか、どこに行きたいのか、何を食べたいのか、お誕生日のプレゼントは何が欲しいのか聞いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	だいたいの一日の生活の流れはあるが、起床時間、入浴時間、就寝時間など一人ひとりの希望にそっている。またその日着る洋服なども決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度、外部からの美容室の方に来ていただき、カット、パーマ、カラーをしてもらっている。また、化粧品を買ってきて欲しいと職員に頼まれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根取りをしてもらったり、食器を拭いてもらっている。また、レク時食べたい食事など尋ねたり希望をきいている。食べれない食材については、別の食品を出したりもしている。	本人の希望を取り入れ、献立を立案されている。また、それぞれの力を活かし、食事作りの支援が行われている。家族会で家族と一緒に食事をする機会を作るなど、楽しみ作りが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回記録し、水分摂取量が少ない方は水分の量をはかっている。また嚥下が悪い方はトロミを使用したり、ゼラチンを使い、ゼリーにして提供している。食事形態も個々に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。自分で行えない方は介助し、自分でケアされる方も、仕上げの歯磨きを行っている。スポンジブラシを使用している方もおられる。二週間に一度はポリデント洗浄をしている。口のトラブルは歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々にあったトイレ誘導を行っている。出来るだけオムツを少なくする方向に支援している。	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導をされている。それぞれのタイミングを把握し誘導することで、自立を促し、オムツに頼らない支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く入った食材とバランスの取れた献立になっている。また汁物の具はなるべく多くの野菜を入れるようにしている。水分の量は疾患に応じて主治医に尋ねており水分摂取量が少ない方は、毎回量を記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて入浴してもらっている。週に2、3回は入浴されている。	入居者の希望に応じ、午前と午後に分けて入浴支援を行っている。週3回を入浴日としているが、入浴日でなくても、希望があった際は希望に応じ入浴の支援をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて、入居者様の好きなように過ごされている。居室が良い人は居室で、リビングが良い人はソファで過ごされている。昼夜逆転されないように、運動やレクを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様ひとりひとりに内服に関する説明書があり、ファイルに閉じている。それは職員がいつでも見れるようにしており、把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケが好きな方、編み物が好きな方、水墨画や書道が好きな方、それぞれ楽しみながら気分転換されている。また夕食後にタオルを毎日洗濯しており、それを干す手伝いをされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には行えていないが、花見の時期にはバスハイクしている。外部の送迎サービスを利用して外出されている方もおられる。	花見の時期にドライブ支援を行っている。その他、個別に外出希望がある際は、家族の協力や外部のサービスを利用して外出されている。しかし、散歩など日常的な外出の頻度は少ない。	ドライブだけでなく、近所への散歩や外気浴など、日常的な外出機会を増やされることに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出される方には希望に応じてお金を所持、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご家族との電話やの取次ぎや郵便物を代わりに出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節感のある絵手紙や似顔絵などを掲示している。また、リビングや居室内には乾燥を防ぐ為の加湿器や空気清浄機、リビングには湿度を設置している。	リビングには、絵手紙や、入居者一人ひとりの手形や似顔絵が掲示されており、温かみのある空間作りがされている。また、空気清浄機、床やテーブル、手すりの消毒など、衛生面にも十分に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓に集まり話しができるようには促している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、その他の物など、今まで自宅で使用されていた愛着のあるものを持ちこまれている。	希望者には、馴染みの家具を持ち込んでもらい、安心して過ごして頂けるよう、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がご自分の居室と分かるように表札を設けたり、転倒防止のため、センサーを利用し安全に過ごしていただけるようにしている。		